

ヤマアジサイのクレナイ自生地を訪ねて 2020.7.20 前田 悟

協会の杉本さんから現地調査依頼を受け、数年の時を経て、ようやくクレナイの自生地を荻巣・鴨川・市川・前田 4 名訪れることができた。天候にも恵まれ、現地案内はベニガクの命名者である手塚章さんをお願いし、充実した一日となった。

天竜峡 PA に集合後、天竜峡大橋からの雄大な景色を堪能した。しかし、梅雨末期の豪雨の影響で、清流は濁流と化していた。



車で 20 分ほど走り、飯田市上久堅の秋葉街道小河路峠越え沿いの溪流に到着した。標高は約 980~1000m。スギが密生する林床には、クレナイが群生していた。しかし、日照不足のためか、花の色は冴えなかった。



上流に進むと、観音様が祀られた場所があり、そこにはザゼンソウの保護のためにスギが伐採された開けた空間があった。その中に、自生種のクレナイが生き生きと生育しており、中には濃い色の個体も見られた。

(観音堂付近のクレナイの群生地)



この場所では、日照条件が良好なためか、クレナイの花の色が鮮やかで、観察できた個体の中には、特に色が濃いものもあり、品種の特徴である色の変化を鮮やかに観察することができた。

(色の濃いクレナイの個体)



今回の観察で、クレナイの生育環境が、日照条件によって大きく左右されることがよくわかった。また、自生地の保護活動の重要性も改めて認識した。



上記写真の様に自生地では発色には随分個体差があった。